

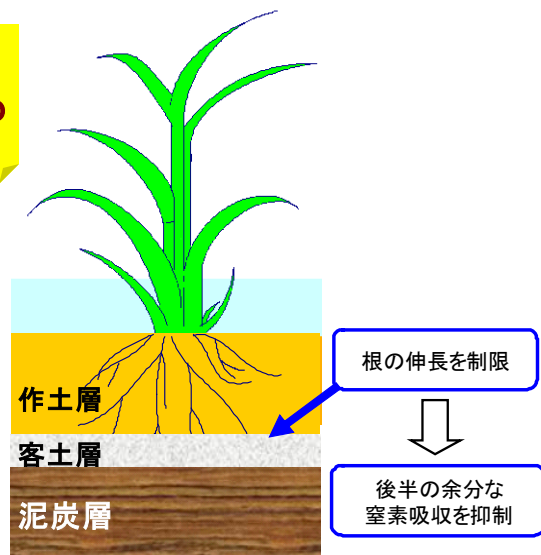


泥炭土水田における良食味米生産のための 基盤整備技術『砂質客土埋設工法』

これまで高タンパク米になりやすかった泥炭土水田で、タンパク質含有率を安定的に低減する基盤整備技術を開発しました。

砂質客土埋設工法の概要

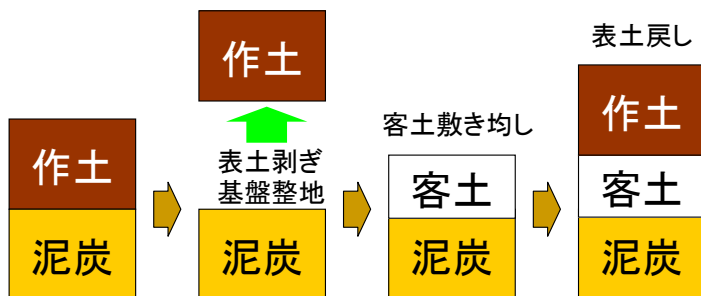
- 砂質客土埋設工法は、作土層の下に透水性の良好な客土材(粗粒火山性土)を埋設する工法です。
- 埋設した客土材により稲の根が泥炭層へ伸びることを制限し、また余分な窒素吸収が抑制されて、米粒タンパク質含有率が低減されます。



砂質客土埋設工法の概要

砂質客土埋設工法の施工方法

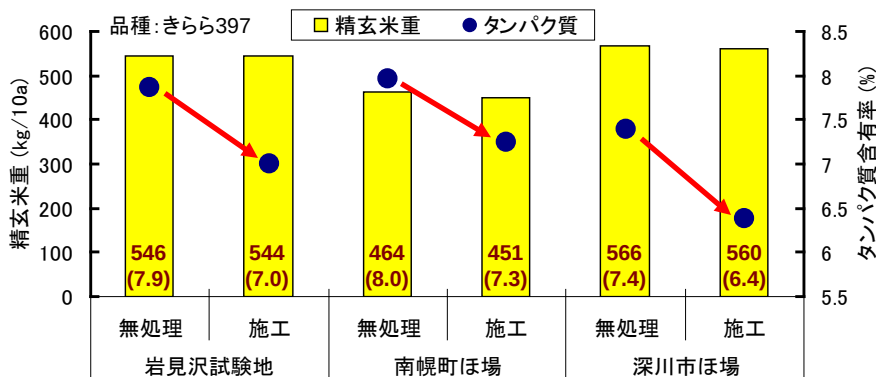
- 施工方法は、まず作土25cmをはぎ取り、泥炭面の上に客土材として粗粒火山性土(厚さ5～10cm)を敷き均し、その後にはぎ取った作土を客土材の上層に敷き均します。
- 主に区画整理時に施工することを想定しています。



砂質客土埋設工法の施工方法

砂質客土埋設工法の施工効果

- 砂質客土埋設工法の施工ほ場では、収量は無処理区と同程度で、タンパク質含有率は0.7～1.0%の低下が見られました。
- 特に施工後14年目のほ場においても1.0%の明らかなタンパク質含有率の低下が確認できたことから、長期間にわたってタンパク質含有率の低減効果が期待できます。



※岩見沢試験地、南幌町ほ場は施工後3年間(H17～19)の平均値で、深川市ほ場は施工後14年目(H19)の値。
図中棒グラフに記載している数値は精玄米重、括弧内の数値はタンパク質含有率。

北海道立中央農業試験場生産研究部水田・転作科
住所 〒069-0365 岩見沢市上幌向町217番地
電話番号 0126-26-1518
e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp